



川崎市

# 将来の医療需要(入院)を 踏まえた基準病床数の検討

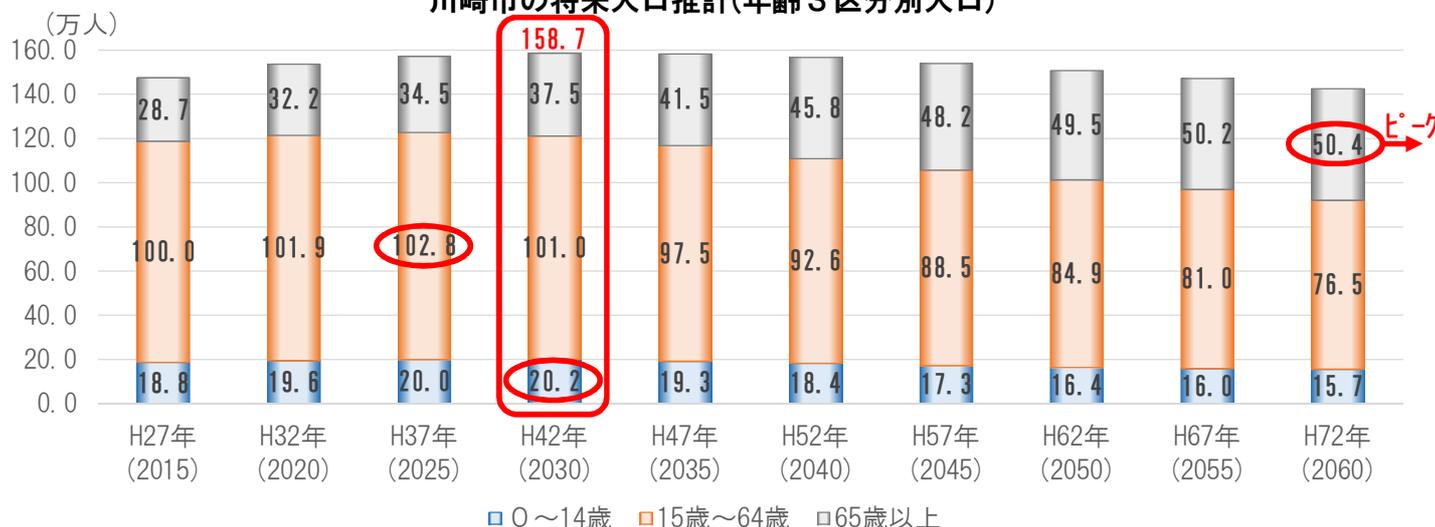
平成30年2月7日

川崎市健康福祉局保健医療政策室

## 人口構造(将来人口推計)

- ◆ 総人口は**平成42(2030)年**まで増加し、ピーク値は**158万7千人**
- ◆ 年少人口(0~14歳)は**平成42(2030)年**まで増加し、ピーク値は**20万2千人**
- ◆ 生産年齢人口(15~64歳)は**平成37(2025)年**まで増加し、ピークは**102万8千人**
- ◆ 老年人口(65歳以上)は**今後も増加**し、平成72(2060)年には**50万4千人**

川崎市の将来人口推計(年齢3区分別人口)



# 2025年の医療需要と病床の稼働状況

医療需要及び必要病床数

区域	病床機能	2025年の	
		医療需要 [人/日]	病床稼働率 必要病床数 [床(%)]
川崎北部	高度急性期	515	75%
	急性期	1,410	78%
	回復期	1,293	90%
	慢性期	1,077	92%
	計	4,295	-
川崎南部	高度急性期	642	75%
	急性期	1,815	78%
	回復期	1,412	90%
	慢性期	526	92%
	計	4,395	-
合計	高度急性期	1,157	75%
	急性期	3,225	78%
	回復期	2,705	90%
	慢性期	1,603	92%
	計	8,690	-

許可病床数・稼働病床数 [床]

区域	区分	H28病床機能報告		
		許可病床数	稼働病床数	差引
		①	②	③=①-②
川崎北部	高度急性期	1,166	992	174
	急性期	2,059	1,969	90
	回復期	250	250	0
	慢性期	898	872	26
	休棟等	39	14	25
	計	4,412	4,097	315
川崎南部	高度急性期	182	169	13
	急性期	3,823	3,636	187
	回復期	292	273	19
	慢性期	526	526	0
	休棟等	96	0	96
	計	4,919	4,604	315
合計	高度急性期	1,348	1,161	187
	急性期	5,882	5,605	277
	回復期	542	523	19
	慢性期	1,424	1,398	26
	休棟等	135	14	121
	計	9,331	8,701	630

【命題】地域の医療機関等との協力のもと、資源を最大限に活用しながら、将来の医療需要に対応する

2

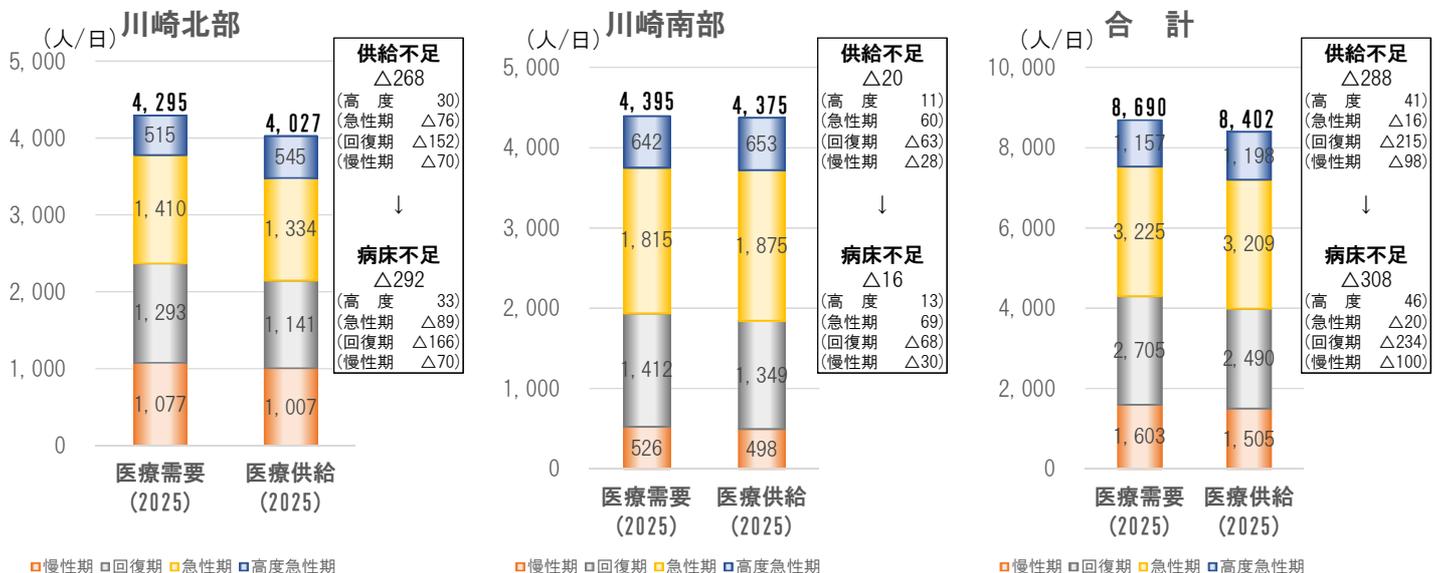
## 医療需要と医療供給

◆ 「非稼働病床の活用」及び「将来の医療需要を踏まえた病床機能の分化」を仮定

◆ 「現行水準+8.0ポイントの病床利用率(H28病床機能報告)」を仮定

川崎北部: 高度急性期91.4%・急性期85.4%・回復期91.7%・慢性期99.7%・全体91.3%

川崎南部: 高度急性期82.5%・急性期97.2%・回復期93.0%・慢性期94.6%・全体88.9%



3

※1 有床診療所を含め「病院」の病床利用率を用いて試算 ※2 病床機能の分化に伴い、全体の病床利用率を補正(北部:90.3%→91.3%・南部:88.2%→88.9%)